# 令和８年９月定例教育委員会会議録

１．日　時　令和８年９月 24 日（木）午後２時 30 分～午後３時 30 分

２．場　所　市役所新館　４階　第２委員会室

３．出席者

教育長　谷　桂輔　　教育長職務代理者　植原　和彦　　委　員　伊藤　雅彦

委　員　大荷　啓司

４．事務局出席者

教育総務部長　山田　潤／学校教育部長　倉垣　裕行／生涯学習部長　池内　正彰

総務課長　柿花　真紀子／学校適正配置推進課長　今橋　章吾／学校給食課長　寺埜　朗

学校管理課長　倉橋　良弥／産業高校学務課長　橋本　純／学校教育課長　石井　良和

人権教育課長　松本　真里／生涯学習課長　長谷川　真紀

スポーツ振興課長　仲村　英二／郷土文化課長　井上　慎二／図書館長　宇野　義文

総務課参事　二宮　明生

開会　午後２時 30 分

前回会議録について承認された。本会議録署名者に伊藤委員を指名した。

傍聴人２名。

**〇谷教育長**

それでは、ただいまから、９月定例教育委員会会議を開催します。

**報告第 43 号　産業高校市民公開講座「パソコン講座」の実施について**

**〇谷教育長**

報告第 43 号について、説明をお願いします。

**〇橋本産業高校学務課長**

報告第 43 号につきましては、産業高校市民公開講座「パソコン講座」の実施についてです。

岸和田市内在住・在勤の方を対象に、Excel や PowerPoint の操作を学んでいただけます。今回は、新たな試みとして PowerPoint の講座を開設します。また、Excel については「中級」として、基本的な操作はできるという方が、もう少し上位レベルの操作を学んでいただける講座といたします。

日程は記載のとおりの全５回で、いずれも午後６時から７時半です。定員 20 名で、講師は産業高校の教員。参加者にはテキスト代として PowerPoint は 2,500 円、Excel は 1,000 円をご負担いただきます。

申し込み方法は、ＱＲコードからのフォーム入力としております。広報きしわだ 10 月号と

市のホームページで周知します。報告は以上です。

**〇谷教育長**

報告が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

**〇植原教育長職務代理者**

産業高校の地域における役割として、地域との連携が重視されています。パソコンの分野だけでなく、いろいろな面で広げていくことが、産業高校にとってとても大切だと思います。

高等学校の先生方の専門性は非常に高いうえに、教え方も上手だと思います。このような取組をどんどん広げていただけることをお願いしたいと思います。

**〇谷教育長**

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

**報告第44号　令和８年度　全国学力・学習状況調査及び大阪府小学生すくすくウォッチ、岸和田市学力調査の結果について**

**〇谷教育長**

報告第44号について、説明をお願いします。

**〇石井学校教育課長**

報告第44号につきましては、令和８年度　全国学力・学習状況調査及び大阪府小学生すくすくウォッチ、岸和田市学力調査の結果についてです。

令和８年度全国学力・学習状況調査及び大阪府小学生すくすくウォッチの結果について、市民に対して説明責任を果たすとともに、本年度の結果を踏まえて、改善についてのポイントを明確にし、学力向上を推進するものです。また、岸和田市学力調査についても、同様に結果の分析を行い、課題を明らかにしたうえで授業改善に活かしてまいります。

報告内容は市ホームページに掲載し、本市の学力の状況等についてお知らせいたします。

まず、全国学力・学習状況調査の報告です。

１枚目に小中学校の国語、算数・数学、２枚目は中学校の英語、正答率40%以下の児童生徒の割合と平均正答率の経年変化となっております。３枚目には「質問調査の結果概要」を掲載しております。

１枚目ですが、「調査の概要」はご覧の通りで、調査の問題や正答例などは、記載のＱＲコードからご覧になれます。

次に、「結果の概要」ですが、右上に記載の小中共通の１つめですが、『各教科の平均正答率』については、小中学校ともに、いずれの教科においても全国の平均正答率と比べて低い状況です。

枠内には、子ども達の解答状況から良好なところ（★印）と課題となるところ（▲印）を教科別に掲載しております。

なお、良好なところとは、全国の平均正答率との差が小さい設問で、課題となるところとは、全国の平均正答率との差が大きい設問を意味しています。文章の後ろのカッコの数字は調査問題の設問番号を表しています。

２枚目をご覧ください。今年度は、英語がタブレット端末を用いて回答するＣＢＴ（Computer Based Testing）で実施されました。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の３技能と、「話す

こと」を加えた４技能の結果をそれぞれ掲載しております。

なお､昨年度の中学校理科に引き続き､今年度は中学校英語がＩＲＴ(Item Response Theory)方式で実施しております。ＩＲＴ方式とは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は公開問題と生徒ごとに異なる非公開問題があります。この方式は、年度間で出題内容が異なっても、結果を同じ尺度で測れるため、経年比較が可能となります。ちなみに、来年度からは小中とも全教科がＣＢＴ方式となり、平均正答率の表記が無くなる予定です。

小中学校共通して、どの教科も考えを記述することに課題があります。このことは、１枚目の右上に記載の小中共通の６つめに記載しています。この課題を改善するためには、自分の考えを書いて表現することや、考えの根拠や理由を説明することを繰り返すことが大切です。特に授業においては、思ったことや考えたことを発言するだけではなく、子どもの発達段階に応じて、授業者がその理由を問い返したり、子ども自身が教科書などの叙述や図・資料から根拠を探したりすることを日常的に行うことが大切です。また、対話をとおして考えを広げたり、深めたりしながら、記述する機会を積極的に設けることが大切です。

続いて、下段の左『正答率40%以下の児童生徒の割合』ですが、全国の値を１とした時の岸和田市の割合を経年で示しております。

小中学校ともに依然として課題がみられます。今年度、導入したAIドリルも活用しながら基礎基本の定着と活用力の育成に向けて引き続き取り組みます。

３枚目は、「質問調査」から抜粋して調査結果を記載しています。

左側＜学習について＞の下段の質問「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、肯定的回答の割合が昨年度を上回りました。

分析としては、グラフの下に記載の通り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各校では、子ども達が対話する場面を積極的に設けています。しかし、子ども自身が考えを深めたり、新たな考え方に気付くためには、考えの共有にとどまらず、他者の考えと自分の考えを比較検討したり、物事を多角的な視点で捉えることが必要です。自分の考えを視覚化したり、異なる意見を図にしたりと、考えを整理するような授業を進めています。タブレット端末を使うだけでなく、複数の情報を結び付けて整理することも「情報活用能力」を育成する上で、大切なことだと考えています。引き続き、これらの力を育んでいきます

真ん中、＜自己有用感等について＞の下段の質問「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」では、肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小中学校ともに年々高くなっており、昨年度に続き、今年度も全国を上回りました。

引き続き、学習指導や生徒指導等、あらゆる場面で、子ども達との丁寧な関わりを積み重ねていきたいと考えます。また、学習支援員や子どもサポーター等の配置により、子ども達が学校の中でいろいろな大人と関わることができます。今後も教職員が一体となって、子ども達が安心して過ごせる環境をつくっていきたいと思います。

１枚目の小中共通の７つ目に記載の通り、児童生徒の生活習慣・学習習慣に課題があることから、家庭・地域と連携した教育活動の中で子どもの主体的に学習に取り組む態度を育むことが大切であると考えます。学校でも、家庭学習・自主学習の大切さや取り組み方を子ども達に

伝えていきます。次に４枚目の大阪府小学生すくすくウォッチの報告です。

「調査の概要」「結果の概要」はご覧の通りとなっております。

今回の結果をふまえ、課題を改善していくために、国語では、自分の意見を書く場面においてセルフチェックを習慣化し、算数では、日常的に情報の整理・活用に取り組み、そのプロセスを言語化する活動を行います。書いて終わるのではなく、もう一度読み直すことで、主語と述語がねじれていないか、また、自分の書いた文章が他の人にも伝わるかを確認する機会が大切です。特に算数では、解くスキルを重視するがあまり、その手順や方法を説明できない児童が多いため、日々の授業の中で、その機会を確保する必要があります。

理科では、授業や日常の場面、生活の中で、既習知識と結び付けて考えること、情報を整理して伝える習慣をつけることが必要です。教科書やテスト等の問題を読んだときに、どれだけ、これまでに学習した知識と結び付けられるかが大切です。同時に、理科は日常生活の中で抱く疑問を含め、生活経験とも深いつながりがあるため、日々身の回りのことに興味をもてるような働きかけを大切にしたいと思います。

全体を通して、子ども達が自分で必要な情報を選択する・整理する・まとめる・表現する経験を何度も重ねていくことが大切であると考えます。

これは、右側下段の＜小学校５・６年＞の「わくわく問題（教科横断型問題)」で問われているA～Eに示されている５つの力を身につける上でも同様と考えます。

次に５枚目の岸和田市学力調査の報告です。

「調査の概要」「結果の概要」はご覧の通りとなっております。

３年生、４年生ともに大きな変化はありませんでした。

国語では、漢字を読むことについては、定着がみられますが、漢字を書くことについては、出題によって差がみられます。また、指定された条件で文章を書くことに課題がみられます。文章を書く機会を大切にするとともに、ただ分量を書く指導ではなく、書く上での条件づけを行うなど、日常的に、子ども達が「書き方」を意識することが大切です。

読書などを通して様々な言葉を身につけるとともに、他教科でも自分の考えや意見を書く場面で、文章の構成を意識した書く活動を、継続・反復する必要があると考えます。

あわせて、自分で考え、言語化する場面を取り入れた授業や興味関心について話す場面を重ねることが改善につながると考えます。算数では日常的に使う計算や数学的な考え方については、おおよそ定着していることがうかがえます。

既習内容の定着や数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

既習内容と結びつけて考え、言語化する授業を教科横断的に行うことと、既習内容の反復・定着を狙った取り組みが改善につながると考えます。報告は以上です。

**〇谷教育長**

報告が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

**〇植原教育長職務代理者**

成績の部分は、委員として８年も関わってきているだけに責任を感じるところです。１枚目を拝見しますと、例年と違うところは課題が明確化されており、これを基に学校長、或いは教育委員会が課題を解決するための具体的な施策が出るのではないかと私は感じています。その補助として、ＡＩドリルや放課後学習を通じて基礎強化に取組んでいるのだと思います。課題

を見て岸和田では今後の具体策を取り出していけるのではないかという期待感を持つことが出来ました。こうすれば成績を上げていくことができるのではないかという具体策が出そうだと感じております。

また、自己有用感についての話が出ました。よく似た言葉で自己肯定感、自己効力感があります。自己有用感は積極的に人と関わることや、人と関わることが好きになること。自分はできるという思いから、人との接触やグループになる、要するに非認知能力の育成が非常に高くなります。

学力を上げていくためにはもう１つ大事なことは自己効力感、バンデューラが提唱した自己効力感がとても大事です。これは、自分の力を信じて進む、自分は社会の中の一員であり、失敗しても次に向かって立ち直れるのだというのが、自己効力感です。これを育成することによって学力がアップしたり、何事にも積極的に、失敗しても課題に対してこうしていこうという思いが出てくる。自分の行動を自分で最終的に決めていけることが自己効力感です。そしてよく言われる自己肯定感、これは自分のありのまま、つまり人権のことですが、ありのままの自分を肯定して、何事にも挑戦していく、失敗にもめげず、自己主張をしていくということ。この３つの力が統一して学力が上がっていくものです。その観点から、この岸和田市の結果概要を見ていくと、来年度にむけて大きな期待を持てます。非常にいい資料だと思います。ぜひ学校長、或いは担当者、教育委員会が１つになって、この３つの力をつけてあげる方向で進めていただきたいと思います。

**〇伊藤委員**

１ページ目の小中共通の右上の７番、児童生徒の生活習慣、学習習慣に課題があることから家庭・地域と連携した教育活動の中で子どもの主体的に学習に取組む態度を育むことが大切です。学力を着実に身につけるための家庭学習・自主学習、授業づくりが大切ですとあります。私はここがとても大事なことではないかと思います。実際に学校現場に訪問させていただいて、中学校で、生徒たちのなかには学習意欲が低い生徒がいることを感じます。やはり家庭での学習がとても大事ではいかと思うのですが、その前段にあたる幼稚園での教育や、或いは、家庭での幼児教育や家庭学習というか、親が子どもに施す学習がとても大切なのではないかと思います。その辺りから取組めば、学校に行って学ぼうという気持ちになる、そういう気持ちを育むことが一番大切なのではないかと思います。非常に時間のかかることかもしれないですが、小学校で、或いは中学校で学力を上げていこうと考えるのであれば、そのあたりから何か取組や、新たな施策的なことをしていくことも大事なのではないかと思います。もちろん行政として各自治体では学びの場である図書館を整備することや、今時のスタイルで、親子で一緒に学べるような環境づくり等、そんなところから、学力の向上にも繋がっていくのではないかと思います。

中学校になると、一部の生徒では勉強なんてしなくてもいいと思っているような子どもも見受けられます。そのような子ども達の底上げをしてあげる施策や、やる気を起こさせるような、或いは、学ぶことは実は楽しいということを教えてあげられる施策ができたらいいなと思います。

**〇植原教育長職務代理者**

家庭教育は大事だと思います。その分野に関しても、今回のすくすくウォッチのなかでクロ

ス分析をされており、家庭教育の啓発に繋がることと思います。

せっかくクロス分析をされているので、ぜひこの辺も保護者にしっかりとＰＲしていただきたいと思います。読んで欲しい人に読んでもらいたいのですが、ＰＲの仕方もとても難しいと思います。読んで欲しい人に読んでもらえると効果があがると思います。

**〇谷教育長**

先ほどからお話が出ておりますが、今回の結果も厳しい状況であると受けとめさせていただき、ご意見をいただきましたように、今後、これを受けて、どのように各学校で取組を充実させていくかということを検討していきたいと考えております。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

**報告第45号　令和８年度　岸和田市中学校総合体育大会について**

**〇谷教育長**

報告第45号について、説明をお願いします。

**〇石井学校教育課長**

報告第45号につきましては、令和８年度　岸和田市中学校総合体育大会についてです。

日時は、令和８年７月24日（金）～９月５日（土）で実施しました。

なお、野球は、10月24日・31日・11月１日・７日・８日、ソフトテニスは12月５日・12日、ソフトボールは実施無し、駅伝は12月25日、サッカーは冬休み中の開催予定です。

場所は各種目、ご覧の通りです。

別紙をご覧ください。各種目の結果はご覧の通りです。報告は以上です。

**〇谷教育長**

報告が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

**〇伊藤委員**

総合体育大会ということで、サッカーのように競技がこれから行われるものもあるのですが、大会の結果が広報紙に載るといったことはあるのでしょうか。これまで載せたことはあるのでしょうか。市の広報紙に載れば子ども達の励みになるのではないかと思いました。結果だけでも載れば、岸和田市全体がスポーツで盛り上がっていることを知ってもらえていいのではないかと思いました。

**〇石井学校教育課長**

確認をいたします。学校教育課のホームページには掲載することは可能です。掲載方法についても確認した上で検討したいと思います。

**〇大荷委員**

７月24日から９月５日にかけての大会ということで、非常に暑い時期に開催されましたが、生徒たちの健康上の問題等はなかったのでしょうか。体育館では空調が効いているのでしょうか。

**〇石井学校教育課長**

体育館のほか、剣道場や柔道場等の格技室での実施となっておりますので、冷房が全て完備されているわけではないのですが、一部扇風機を使用しながら、熱中症対策には万全を期しておりましたので、大会の実施の中で、救急搬送されるといったケースがあったという報告は聞

いておりません。また、養護教諭等が帯同しておりますので、何か生徒達が困った状況の際にはすぐに顧問や教員が対応できる体制も整えて実施をしております。

また、野球、ソフトテニスは従来、夏場に実施しておりましたが、秋冬の実施に変更しております。

**〇谷教育長**

以前は、夏季と冬季と、種目の特性に合わせて、夏場と冬場に分けて実施をしていた記憶がありますが、今はそういうことにとらわれずに、季節等そういうことを考慮して、生徒達の健康状態を第一に考えて、開催時期を検討して実施する運用に変わってきたということですね。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

**報告第46号　「第34回KIX泉州国際マラソン」の開催について**

**〇谷教育長**

報告第46号について、説明をお願いします。

**〇仲村スポーツ振興課長**

報告第46号につきましては、「第34回KIX泉州国際マラソン」の開催についてです。

マラソンコースですが、30㎞マラソンは、旧26号線の高石南交差点からスタートし、済生会泉南医療福祉センターまで南下した所で折り返し、りんくう公園がゴールとなります。ハーフマラソンは、旧26号線の岸和田市役所からスタートし、同じく済生会泉南医療福祉センターまで南下した所で折り返し、りんくう公園がゴールとなります。

概要書にお戻りいただいて、大会の周知は、広報きしわだ９月号及び市のホームページで行っています。近年の実績は、表のとおりです。報告は以上です。

**〇谷教育長**

報告が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

**〇大荷委員**

令和４年度の公道実走はフルマラソンでしたが、今回は30キロとしている理由があれば教えていただけないでしょうか。

**〇仲村スポーツ振興課長**

令和４年度の前回の公道実走はフルマラソンとして42.195キロのコースだったのですが、実行委員会から堺市が現在離脱しており、今年度はコース変更が必要な状況になっております。今後はコース変更を検討していくのですが、今回につきましては、これまで走っていた42.195キロのうちの30キロをコースとして実施いたしますが、今後はフルマラソンの実施に繋げていく検討を進めているところです。

**〇谷教育長**

泉州国際マラソンも長年開催されてきました。平成４年の関西国際空港が開港される以前から、30年以上に渡り実施されてきました。歴代の事務局のご苦労があったかと存じます。事務局には厚くお礼申し上げます。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

**報告第47号　令和８年度 市民プール等管理事業の実績について**

**〇谷教育長**

報告第47号について、説明をお願いします。

**〇仲村スポーツ振興課長**

報告第47号につきましては、令和８年度 市民プール等管理事業の実績についてです。

１の市民プールについては、６月19日から８月16日までの間、開設しました。

別紙をご覧ください。

１、「市民プールの使用状況」ですが、朝陽プールを除いた３プールの合計は64日で、14,503人の方が利用しました。

内訳を見ますと、一般開放では、全てのプールにおいて利用者が増加していますが、朝陽プールを休止したため、合計利用者数は昨年度よりも減少しています。

一方、専用使用では、桜台プールで利用者が減少したものの、太田プールで小学校の水泳授業や水泳教室等の利用者が増加したため、合計利用者数は昨年度よりも増加しています。

続きまして、２の民間屋内プール市民開放デーについては、概要書にお戻りください。

この事業は、老朽化に伴う市民プールの休止を補完するために令和５年度から開始したもので、使用料は、市民プールと同額に設定しています。

利用者のアンケート結果によると、「また利用したいですか？」という質問に対し、「ぜひ参加したい」という回答が75%、「利用したい」という回答が25%であり、大変好評を得ています。

また、料金設定についても満足いただいているのと、屋内プールであれば、季節を問わず「利用する」方が84%を占め、屋内プールの需要があることが分かります。

最後に経年変化ですが、年々、参加者数は増加している状況となっています。報告は以上です。

**〇谷教育長**

報告が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

**〇大荷委員**

屋内プール市民開放デーの件ですが、定員が70名のところ、参加者数が35名、22名、29名となっています。利用者がもう少し増えたらいいなと思うのですが。

**〇仲村スポーツ振興課長**

参加者数は年々増えてはいるものの、まだまだ定員を満たすまでには至っていない状況です。今年度は広報誌やホームページ、ＳＮＳ等を使って参加を呼びかけてきたのですが、定員に達していませんので、来年度以降、使いたい時間帯や曜日等を検討して取組んでいきたいと考えています。

**〇谷教育長**

アンケート結果から参加された方には大変好評いただいておりますが、今後は周知に努めていただきたいと思います。令和５年から今年で４回目の取組となり、この間、事業者の拡大や、利用時間数を増やす等の工夫をしていただいているところです。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

**報告第48号　令和８年度 初心者水泳教室の実施状況について**

**〇谷教育長**

報告第48号について、説明をお願いします。

**〇仲村スポーツ振興課長**

報告第48号につきましては、令和８年度 初心者水泳教室の実施状況についてです。

この事業は、夏休み期間中、水泳の苦手な小学１年生から６年生を対象に、25m泳げることを目標に実施しています。

１の開催状況については記載のとおりで、３プールで前期後期に分けて開催しました。

２の参加人数ついては、募集定員が660人のところ、参加は306人でした。

３の泳力テスト結果については、学年別のクロールでの25m完泳率ですが、表に記載のとおりです。

クロールで泳げた方は、テストを受けた299人のうち82人で27.4％です。昨年度よりも完泳率が4.3ポイント増えており、特に５年生、６年生の完泳率が良くなっています。これは、継続して参加する児童の上達や、令和６年度から教員の方にもご協力をいただき、手厚い指導ができたことによるものと考えています。報告は以上です。

**〇谷教育長**

報告が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

**〇伊藤委員**

昨年も伺いましたが、泳力テストはクロールと決まっているのでしょうか。

**〇仲村スポーツ振興課長**

一番基本的な泳法ということで、クロールで25m泳ぐことをまず目標にしております。

**〇伊藤委員**

水泳が苦手な子どもや初心者には最初にクロールはハードルが高いのではないかなと思いました。昔は平泳ぎが非常に普及していまして、随分前ですが、私が子どもの時は平泳ぎで距離を長く泳ぐテストがあり、水練学校でももちろんクロールもあるのですが、最初にクロールではなく、平泳ぎがメインだった記憶があります。初心者の方にとって、クロールは結構難しいですよね。泳げる子はいいのですが、まだ泳げない子にクロールだけによるテストは少しハードルが高いかなと思いますので、平泳ぎでもいいから25mを泳げたら、それも大丈夫というような幅の広いテストにしてみるのはどうかなと思いました。

**〇谷教育長**

ご意見ありがとうございます。初心者水泳教室は、日曜を除く４日間ということなので、指導者の方も、泳法を分けて指導するよりも、泳法を限定して集中的に指導する方法を採られているのではないかと推測します。

子どもによっても、違うと思うのですが、クロールのように、体をローリングすると浮力を得にくいところがありますが、逆にバタ足で上手に水をとらえると推進力が得られます。それに対して平泳ぎは手足の連動がうまくいかないと、なかなか進まないというような状況もあり、子供によっても、得意不得意の違いはあるかと思います。様々な観点があると思いますので、本事業の振返りや打合せの折に、１つの意見として伝えていただけると有難いと思います。

**〇植原教育長職務代理者**

25mの完泳率がとても上昇しており、いいことだと感じています。指導方法を変えた等、何

か要因はありますか。

**〇仲村スポーツ振興課長**

指導法は特に変えていないのですが、継続して参加いただいている小学生もいます。また、教員にも指導に入ってもらっていることも要因の一つだと思います。

**〇谷教育長**

初心者水泳教室ということで、指導に当たられる指導員の方も、熱心にご指導いただいたおかげで、ご意見いただきましたように本年度については、とくに小学校５・６年生の 25mを泳ぎきった児童が昨年度より増えました。

以前は４年生までが対象でしたので、非常に水泳教室の成果が数字として表れているものと受止めております。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

**報告第 49 号　岸和田城天守閣の展示について**

**〇谷教育長**

報告第 49 号について、説明をお願いします。

**〇井上郷土文化課長**

報告第 49 号につきましては、岸和田城天守閣の展示についてです。

９月２日（水）から 11 月 25 日（水）まで、企画展「海と生きる岸和田～港と漁業の歴史～」を開催しています。

大阪府内でトップの漁獲量を誇る岸和田の歴史は江戸時代の岸和田藩主岡部家が古城川の河口を舟入場としたことに始まり、近代の港湾整備を経て、現在の姿になりました。今年度は「第 45 回全国豊かな海づくり大会」が開催されるため、会場となっている本市でも“海”への注目が一層高まると考えられますので、岸和田の人々と海の関わりの歴史を紹介することで、本市の港湾発展や漁業文化について広く知っていただく機会にしたいと考えています。

資料は、江戸時代の岸和田の港を描いた「魚之店川尻船入場図写」（うおのたなかわじり　ふないりばず　うつし）、岸和田で行われた漁法を図解した「漁労図」、弥生時代から始まった製塩業で使用された「製塩土器」および「製塩土器の台部分」のほか、港や漁業に関する約 25 点を展示しています。

周知方法は広報きしわだ９月号、市のホームページやポスター等によって行っています。また、第 45 回全国豊かな海づくり大会大阪府実行委員会事務局にもご協力いただき、大会ホームページで周知していただいております。報告は以上です。

**〇谷教育長**

報告が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

**〇植原教育長職務代理者**

岸和田城天守閣での企画展は、非常にタイムリーな開催だと思います。というのは 11 月の 14 日と 15 日に岸和田で全国豊かな海づくり大会が開催されます。２ヶ月前の９月から企画展が始まり、海づくり大会が終わった後も２週間程企画展が続いています。タイムリーに実施していただき有難いと思います。

**〇井上郷土文化課長**

岸和田自然資料館におきましても、今年の 11 月からの特別展では、海をテーマしたものを行います。あらためて報告いたします。

**〇谷教育長**

臨海線の岸和田港の交差点、いわゆるカンカン場と言われている交差点ですが、ここに岸和田港というプレートがかかっており、今は埋立が進んでおり海がすぐそばにはなく、説明にもありました古城川そのものも今は暗渠になっております。以前は、古城川の河口が舟入場であったということを知っている方は少なくなりつつあるのではないかと思いますので、展示を契機に、いろいろな世代の方に、かつてはここが海だったのかということに思いをめぐらせてもらえることを願うところです。

また、浪切神社という神社が、もともとは魚之店川尻船入場写の海に付き出たところにあったものが、一旦、陸地に遷座されて、その後の港湾整備の埋立によって、今の臨海線沿いの場所にまた移ってきたということを昔を知る方にお聞きしたことがあります。天守閣の展示とあわせて、近くを通られますと浪切神社も見ることができます。かつてはその神社ももっと海側にあったということにも思いをめぐらしていただきたいと思います。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告は以上となりますが、他にいかがでしょうか。

ないようですので、議案の審議に移ります。

---

**議案第 44 号　令和８年度　岸和田市教育委員会表彰の被表彰者等の決定について**

**〇谷教育長**

議案第 44 号について、説明をお願いします。

**〇柿花総務課長**

議案第 44 号につきましては、令和８年度　岸和田市教育委員会表彰の被表彰者等の決定についてです。

今年も、11 月３日、文化の日の祝典において各課から推薦をいただいた方々を表彰しようとするものです。

該当者の案は別紙①のとおりです。まずは、表彰状被贈呈者です。表彰状は、岸和田市教育委員会表彰規則第２条から第４条に該当する方として、学校医等の永年勤務や教職員の教育研究論文の特選・入選、文化・スポーツ大会での府大会以上の最優秀賞や優勝した個人や団体等に贈呈予定です。次に、感謝状被贈呈者です。感謝状は、規則第８条、内規の７に列挙の方々に贈呈予定です。

なお、今回の表彰者は、団体 20、個人 124 名、感謝状贈呈者は、団体０、個人 35 名となっています。昨年度と比べますと、表彰者については、個人の贈呈者が昨年度から 40 名程度増えています。感謝状については、今年度は各種団体の改選の時期等の関係で対象者が少なくなっており、個人が 70 名から 35 名と大きく減っています。

説明は以上です。

**〇谷教育長**

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

別紙の資料の 14 頁の上段に文化部門という記載がありますが、どのような取扱いでしょうか。

**〇柿花総務課長**

こちらは、文化国際課より対象者を提出をいただく内容になっております。従前は資料に載せていなかったのですが、市長部局側で被表彰者を決定していただくものです。

**〇植原教育長職務代理者**

今回とくに感じたことは、市民の力のすごさを感じました。学校教育部門のスポーツ部門における表彰をはじめ、学校教育においても社会体育においてもスポーツが盛んな市であると感じました。表彰対象となる規程が変わっていないなか、このように多くの方が表彰されることは、他市では見受けられないのではないかと思います。素晴らしいことだと思います。いかに宣伝していくかですね。団体や個人で素晴らしい成績を収められ、市長を訪問され、激励のお言葉をいただいている方もいらっしゃると思いますが、岸和田市の市民の力、スポーツに対する力のすごさを感じました。指導者、そして周りで関わる人達への感謝の念を持ちます。

**〇谷教育長**

非常にたくさんの方が、いろいろな分野でご活躍されていることが、この表彰者の名簿からもうかがえ、大変喜ばしいことだと思っております。

他にいかがでしょうか。ないようですので、原案のとおり承認することとします。

閉会　午後３時 30 分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

教育長

署名委員